

ポスドク11年からの民間転職

n=1の体験談で言えること

牧野崇司（株式会社ブレインパッド）

キャリアパス・ダイバーシティ合同セッション | 博士人材の多様なキャリアパス
2022年日本バイオインフォマティクス学会年会・第11回生命医薬情報学連合大会

自己紹介

- 牧野崇司（株式会社ブレインパッド）
- 学位取得後11年をポスドクとして過ごしたのち、現職
- 転職の経緯を『アカデミアを離れてみたら』に寄稿

アカデミア



生態学研究

民間企業



データ活用



岩波書店編集部（2021）

内容と対象

- 内容

- 転職の経緯
 - 転職後の生活
- } ポスドク時代の自分が
知りたかった内容

- 対象

- 進路、就職に悩むすべての方
- そうした方々に関わる職持ちの皆様



※n=1の体験談であり、再現性の有無には注意が必要

アカデミアでの専門

- 送粉生態学（花と虫の関係）
 - ハナバチの空間学習が花の形質進化に及ぼす影響
 - 昆虫の視覚が生み出す植物群集の非ランダムな花色構成



お金になりにくい（民間企業とは縁遠い）分野

学位取得から民間に至るまでの11年間



2016年末に
転職活動を開始



筑波 4年

トロント 2年

山形 5年

学振PD

博士研究員
(無給)

海外学振

研究支援者・

非常勤講師
(2015,2016)

2006

2010

2012

2017

学振

学振

笹川

若手B

若手B 辞退



- 論文を出しつつ研究費も取りつつ、基本的に楽しく過ごす。

民間への転職を考えた理由

- 減る一方の公募
 - 熾烈さを増し続ける椅子取りゲーム
- 年齢制限の噂と40歳の節目（当時38歳）
 - 実質的な公募の数も把握もできない
- 教育経験の不足
 - 学生の面倒見は悪くない方でしたが
オフィシャルな記録としては残らず...
- 就職できたとして研究できるのか問題
- 応募者側からは見えづらい採用基準
 - 採用された対戦相手を見て「あれ？」みたいなあれ

※基準を理解していないから採用されない、との指摘も今なら理解できます。



民間に仕事はない？に対するエージェントの答え

- 年末にエージェント（アカリク）に相談
- 思い詰める私に手渡されたのは
データサイエンティストの求人票の束
 - まったく知らなかった、予想外の職業
 - 機械学習やディープラーニングが注目されている時分
 - 統計とRの経験からの提案



はじめての一般的な就職活動

- 1月中旬から数社で書類選考
- 1月下旬から3月初旬にかけて3社で面接（1次、2次、それ以降など）
 - 日程などはエージェントが調整
 - 高齢ポストクだからと偏見の目を向けられることもなく
どの企業も真摯に向き合ってくれる（怖がらなくてよい）
 - アカポスが少な過ぎることも含めて正直に話す
- 3月初旬に3社とも内定
- うち1社（ブレインパッド）のオファーを受けて4月1日入社
 - 企業によってカラーが異なるなか、
面接での落ち着いた雰囲気が一番自分に合っていた



※活動期間は実質2ヶ月ほど。当時は面接のために上京していたが、
オンライン面接が普及した現在ではより早く進むはず

会社での業務

- 研修サービス
 - 講師（SQL、統計、機械学習など）
 - カリキュラム、教材作成
- 受託分析
 - インターネット広告の効果検証
 - 旅行サービスの予約確率予測
 - 事業会社の分析部署におけるデータ活用支援など



LANGUAGE JA

トップページ

サービス

実績

会社情報

プロフェッショナル・サービス

最適なデータ活用を設計し、
経営に実装する

ポスドクからの転職で大変なこと、役立ったこと

- 大変なこと
 - ビジネスマナーや常識の不足
 - 名刺の渡し方や電話の受け答え、一般的な会社組織のあり方など、基本的なことがわからない
- 役立ったこと
 - 資料作成やプレゼンの技術
 - 相手に何かを伝える技術は研究でもビジネスでも同じ
 - レビューアーとの対決で鍛えられている皆様ならきっと大丈夫！
 - 統計やRの知識
 - 機械学習のキャッチアップ
 - pythonの習得

よかったこと、仕方がないこと

- よかったこと

- 生活の安定

- 1年先も見えない状況からの解放
(慣れっこでしたが今振り返ればかなりのストレス)
 - 過度な節約生活からの解放

- 先延ばしにしていた結婚を実現

- 必要とされている実感

- 入社直後に「長く勤めてもらいたい」と言われた時の衝撃！



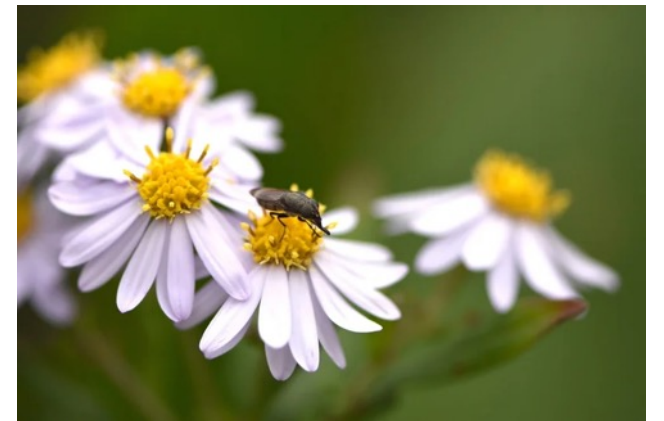
- 仕方がないこと

- 手放した研究への未練

- 好きゆえに20年近く続けた世界…

- 眠ったままの花と虫のデータ

- 在野でどうこうできるほどの体力はなく…



まとめ

- 生態学分野の高齢ポスドクだったが民間に就職できた。
- 専門性ではなく、必要に迫られて身につけていた統計の知識が、**運よく時代のニーズに合致**したおかげ。



- 私のようになんとかかなりますよ、とは言いにくい。
- 専門性が活かせるとは限らないが、**アカデミアで身につく汎用スキルはビジネスでも通用**しうる。
- 個人的には、そうした認識がアカデミア・民間双方に広まることで企業の博士採用が増加し、将来を過度に悲観する博士が減ることを願っている。

さいごに：めでたしめでたし？

- 博士のキャリアパスの多様化は歓迎すべきこと。
- 一方で、研究を続けたい博士が、その専門性を放棄してまでアカデミアを去らざるを得ない今の状況は憂うべき社会問題では？

- 進行中の研究
- 将来積み重ねられたはずの研究
- 研究者間のネットワーク（海外とのパイプ）
- 育つはずの後進

せっかく育てた資産や
将来的な可能性を失うことに



- 任期制や雇い止めの見直し、アカポスの増加など、アカデミア内の環境改善も願う。